

榛名山ヒルクライムに青雲寮生12人 1年かけ練習 健闘誓う

吉井町小串の社会福祉法人・青嵐会(川嶋淳理事長)が運営する障害福祉サービス事業所内のグループホーム「青雲寮」(増田敦寮長、30人)の寮生12人が、16、17日に開催される自転車レース、第3回榛名山ヒルクライム高崎(ノルビル、同ヒルクライムin高崎実行委員会主催)に出場する。



榛名山ヒルクライムに出場するメンバー



初心者コースに出場するメンバー

「無事に走り切りたい」

「お谷道の声援に勇気をもらい、走り終えた時の爽快感や達成感を味わい、大会の「常連」となった。増田寮長(51)は「一人一人が1年かけて練習してきました。目標ができたおかげで、仕事も生活面も充実しています」と話す。

そろいのユニホーム

回を重ねるたびに寮生の気力、体力は向上し、今回初めてメンバーのうち6人が榛名山ヒルクライム(11.6キロ)に挑戦する。競技用の自転車、靴、ヘルメット、手袋、すべて自己収入から購入し、チームウェアとモチベーションを高めるため、そろいのユニホームも作った。大会前の週末には全体練習を実施。「頑張れ」、「無理しなくいいよ」など声を掛け合い、互いの健闘を誓い合っている。

榛名山ヒルクライムに挑む曾根清さん(46)は「期待と不安でいっぱいですが、ゴールまで無事に走りたい」と意気込む。2年連続で初心者コースに出場する大木浩子さん(46)は「昨年は歩いてしまいましたが、ことしは自転車で走り切りたい」と笑顔を見せる。

レース後の楽しみは、伴走する職員らと一緒に食べる焼き肉店でのランチ。メンバーは大会が待ち切れない様子で、自慢の自転車の手入れに余念がない。

榛名山ヒルクライムin高崎



スタート地点の大森神社前(昨年)

や生活全般を支える事業を展開。施設内の作業所では食品用ポリ袋や全国の指定ごみ袋の加工業務などを行い、働く場も提供している。

地域のイベントには積極的に参加している。ノルビルも当初、体カづくりとレクリエーションの一环として、市の無料レンタル自転車「高チャリ」を借りて出場。寮生

全員完走が目標

今回のノルビルには20代から40代の男性8人、女性4人が臨む。第1回から走っているメンバーもいて、全員がけがをせずに完走する目標を掲げている。

同会には障害のある人が豊かな生活を送れるよう、職業訓練などを実施し、就労支援

16日にタイムトライアルレース、17日にヒルクライムレースを行う。タイムトライアルコースは榛名湖畔の6.8キロのコースで行う。ヒルクライムは市榛名支所近くの大森神社前(下室田町)がスタート。16.1キロの榛名湖コース、11.6キロの榛名山ヒルクライムコース、6.7キロの初心者コースがある。大会には全国から6661人のエントリーがあり、国内では今回初めて「Mt.富士ヒルクライム」に次ぐ2番目の規模となった。問い合わせは同支所地域振興課(☎027・374・6715)。